

# 中国語 3 級 T L T の使い方（単語編）

## はじめに

中国語 3 級保証 T L T ソフト『中国語単語 1000』（米国特許取得 No. 5888071 号）は、中国語検定試験 3 級に合格するために必要な単語 1000 語を精選して集めたソフトです。

当ソフトは TOEIC 受験用教材のシステムソフトとして高い信頼と実績を築いており、T L T ソフトでの中国語ソフトとして長く開発が待たれていたものです。

1000 の単語を LEVEL - A、LEVEL - B と、それぞれ 500 単語ずつに分けてあり、後者は前者よりも少し難しくなっています。LEVEL - A、LEVEL - B 共に「単語演習」と「例文演習」から成り、単語が用例を通して覚えられます。

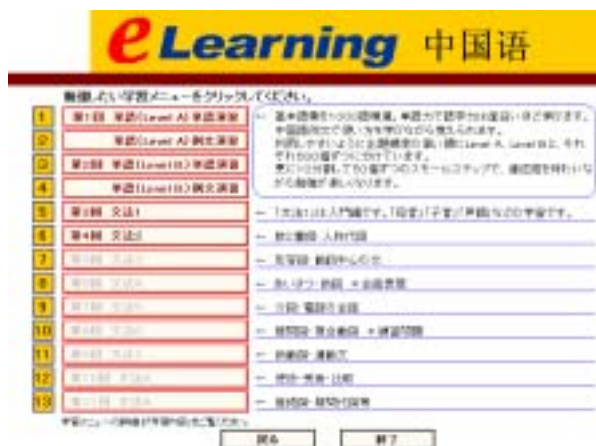
本ソフトの最大の特徴は、TESTING で各利用者に固有の「未知若しくは習熟不足の単語」だけを選び出してから、TRAINING でその語句だけを徹底的に訓練できる点で、これこそが、最短の時間で最大の成果をあげる超高能率メソッドです。

しかも、50 単語（ヒアリングで繰り返し練習するので 100 回）ずつの小さいブロックに分けてあるため、小刻みに達成感を味わいながら、着実に知識を積み上げていくことができ、この手の教材にありがちな、途中での挫折という心配も無用です。

超速習を可能にするワンタッチ入力です。中国語の語義を日本語で答える場合の多くは「最初の 1 文字が合っていれば正解と判定（ワンタッチ判定）」して、すぐ次の問題に移行しますので、学習をスピーディーに進められます。\*「おじ」（「おば」と区別して）など 2 桁以上の判定の場合もあります。

## 学習メニューを選択

ログイン（User ID とパスワードを入力しスタートボタンを押す）して学習したい学習メニューをクリックします。



# 学習の開始と終了

< 開始 >

学習すべき箇所が■色で表示されますので、クリックして学習に入ります。

< 終了 >

学習中に右下の「中断 (ESC)」ボタンを押すとこの画面に戻ります。止めるなら [ 終了 ] をクリックします。次回, 同じパソコン, 同じ ID で使用すると “ 続き ” が学習できます。



# 学習の方法

学習はまず、演習の初回から始めます。(どの演習からも進められますが左から順に進めることをお奨めします)

初回が終了すると復習 1 へ進み、初回で x になった問題を復習します。

復習 1 が終了すると復習 2 へと進み、復習 1 で x になった問題を復習します。

復習 2 が終了すると、その演習の上に合格表示がでて、総チェックが選択可能になります。

**総チェックは何度でも学習可能です。**

すべての演習に合格表示が出ると画面下に合格番号が表示されます。



## 【TESTING】

- ・ 1つの演習につき50の単語〔または例文〕を練習します。  
問題形式は次の2種類です。
  - 「中国語が表示され+音声を聴いて」意味を答える問題
  - 「音声のみ」を聴いて意味を答える問題
- ・ 1つの演習は が50問、 が50問の計100問で構成されます。
- ・ 学習画面は次のようになっています。  
表示された語句〔文〕の意味をローマ字（アルファベット）で入力します。  
このとき、音声も聞こえます。



次に、音声を聞いて語句〔文〕の意味をローマ字（アルファベット）で入力します。



多くの場合は1桁判定ですが「おじ」（「おば」と区別して）「こんに」（「こんにちは」を「こんばんは」と区別して）など2桁以上の判定の場合もあります。

- ・ 不正解が6問たまるとTRAININGに入ります。

- ローマ字の入力間違えで×になったものを  に変えます。（ただし6回まで）
- 偶然  になった判定を×に変えます。（TRAININGの対象になります）
- 音声を繰り返し聞くことができます。
- 正誤判定の前に、入力した文字を消去することができます。
- 正誤判定の後、 キーを押して次の問題に進みます。

**Esc** キーを押すか、**中断 (Esc)** を押すことで「学習開始」画面に戻ります。

### 【TRAINING】

問題形式は TESTINGと同じ形式です。対象問題を3度連続正解すると、その時点での TRAININGは終了します。

## 進捗表

学習開始画面で

**進捗表画面**

をクリックします。

赤字のボタンは「学習中」あるいは「学習可能」なステップを表します。黒字は終了したステップです。

学習状況はそこでの「**正解数 / 回答数 / 問題数**」で表示されます。

ステップ (ステップ)	題名	正解数	回答数	残りステップ
演習 1	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 2	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 3	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 4	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 5	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 6	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 7	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 8	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10
演習 9	8/11/16/18	8/10/10	8/10/10	8/10/10

ボタンをクリックすると更に詳細な情報が見られます。

ステータス	数	詳細情報
① Testingで合格	2 問	学習開始日: 2004/11/12
② Trainingで合格	6 問	演習 3 学習時間: 00:01:37
③ Trainingで学習中	0 問	総学習時間: 00:01:37
④ 未学習	0 問	
⑤ 問題数	8 問	

# 学習済み単語

学習開始画面で

**既習単語一覧**

をクリックすると  
これまでに合格済みの  
単語の一覧が表示されます。

単語ID	単語	品詞	意味	合格レベル
01-01	去	[動]	行く	◎
01-02	帰	[動]	帰る	◎
01-03	一	[数]	一	◎
01-04	三	[数]	三	◎
01-05	七	[数]	七	◎
01-06	現在	[名]	現在	◎
01-07	今天	[名]	きょう	◎
01-08	明天	[名]	あした	◎
01-09	星期日	[名]	日曜日	◎
01-10	学生	[名]	学生	◎

**印刷** ボタンを押しますと  
学習済みの単語を印刷する  
ことができます。

# ローマ字変換表

入力は、カーソル選択及び数字以外はすべてローマ字入力です。

「ん」はnn, 「つ」はtsu, tu で入力。促音の「っ」は次にくる子音を2度入力, 「さっき」 sakki。単独で「っ」を入力するときは n 以外の子音を2度 tt とか kk というように入力。長音「ー」は「ーほ・=£」のキーを押します。

【ローマ字変換規則】ソフトが自動的に「かな」に変換します。

あ	a	い	i	う	u	え	e	お	o
あ	la	い	li	う	lu	え	le	お	lo
か	ka	き	ki	く	ku	け	ke	こ	ko
か	sa	し	si	す	su	せ	se	そ	so
さ	ta	ち	ti	つ	tu	て	te	と	to
さ	na	に	ni	ぬ	nu	ね	ne	の	no
な	ha	ひ	hi	ふ	hu	へ	he	ほ	ho
な	ma	み	mi	む	mu	め	me	も	mo
ま	ya	い	yi	ゆ	yu	い <sup>え</sup>	ye	よ	yo
ま	ra	り	ri	る	ru	れ <sup>え</sup>	re	ろ	ro
ら	wa	う <sup>い</sup>	wi	う	wu	う <sup>え</sup>	we	を	wo
ら	ga	ぎ <sup>い</sup>	gi	ぐ	gu	げ <sup>え</sup>	ge	ご	go
が	za	じ	zi	ず	zu	ぜ <sup>え</sup>	ze	ぞ	zo
が	ja	じ	ji	じ <sup>ゆ</sup>	ju	じ <sup>え</sup>	je	じ <sup>よ</sup>	jo
じ <sup>や</sup>	da	ぢ	di	づ	du	で <sup>え</sup>	de	ど	do
じ <sup>や</sup>	ba	び	bi	ぶ	bu	べ <sup>え</sup>	be	ぼ	bo
だ	pa	ぴ	pi	ふ	pu	ぺ <sup>え</sup>	pe	ぽ	po
だ	fa	ふ <sup>い</sup>	fi	ふう	fu	ふう <sup>え</sup>	fe	ふう <sup>お</sup>	fo
ば	va	う <sup>い</sup>	vi	う	vu	う <sup>え</sup>	ve	う <sup>お</sup>	vo
ば	sha			し <sup>ゆ</sup>	shu	し <sup>え</sup>	she	し <sup>よ</sup>	sho
ふ	cha			ち <sup>ゆ</sup>	chu	ち <sup>え</sup>	che	ち <sup>よ</sup>	cho
あ	tha	て <sup>い</sup>	thi	て <sup>ゆ</sup>	thu	て <sup>え</sup>	the	て <sup>よ</sup>	tho
う	dha	で <sup>い</sup>	dhi	で <sup>ゆ</sup>	dhu	で <sup>え</sup>	dhe	で <sup>よ</sup>	dho
う	kya	き <sup>い</sup>	kyi	き <sup>ゆ</sup>	kyu	き <sup>え</sup>	kye	き <sup>よ</sup>	kyo
あ	sya	し <sup>い</sup>	syi	し <sup>ゆ</sup>	syu	し <sup>え</sup>	sye	し <sup>よ</sup>	sho
あ	tya	ち <sup>い</sup>	tyi	ち <sup>ゆ</sup>	tyu	ち <sup>え</sup>	tye	ち <sup>よ</sup>	tyo
あ	cya	ち <sup>い</sup>	cyi	ち <sup>ゆ</sup>	cyu	ち <sup>え</sup>	cye	ち <sup>よ</sup>	cyo
あ	nya	に <sup>い</sup>	nyi	に <sup>ゆ</sup>	nyu	に <sup>え</sup>	nye	に <sup>よ</sup>	nyo
あ	hya	ひ <sup>い</sup>	hyi	ひ <sup>ゆ</sup>	hyu	ひ <sup>え</sup>	hye	ひ <sup>よ</sup>	hyo
あ	fya	ふ <sup>い</sup>	fyi	ふ <sup>ゆ</sup>	fyu	ふ <sup>え</sup>	fye	ふ <sup>よ</sup>	fyo
あ	mya	み <sup>い</sup>	myi	み <sup>ゆ</sup>	myu	み <sup>え</sup>	mye	み <sup>よ</sup>	myo
あ	rya	り <sup>い</sup>	ryi	り <sup>ゆ</sup>	ryu	り <sup>え</sup>	rye	り <sup>よ</sup>	ryo
あ	gya	ぎ <sup>い</sup>	gyi	ぎ <sup>ゆ</sup>	gyu	ぎ <sup>え</sup>	gye	ぎ <sup>よ</sup>	gyo
あ	zya	じ <sup>い</sup>	zyi	じ <sup>ゆ</sup>	zyu	じ <sup>え</sup>	zye	じ <sup>よ</sup>	zyo
あ	jya	じ <sup>い</sup>	jyi	じ <sup>ゆ</sup>	jyu	じ <sup>え</sup>	jye	じ <sup>よ</sup>	jyo
あ	dya	ぢ <sup>い</sup>	dyi	ぢ <sup>ゆ</sup>	dyu	ぢ <sup>え</sup>	dye	ぢ <sup>よ</sup>	dyo
あ	bya	び <sup>い</sup>	byi	び <sup>ゆ</sup>	byu	び <sup>え</sup>	bye	び <sup>よ</sup>	byo
あ	pya	ぴ <sup>い</sup>	pyi	ぴ <sup>ゆ</sup>	pyu	ぴ <sup>え</sup>	pye	ぴ <sup>よ</sup>	pyo

# 音声聞こえない(あるいは音量が小さい)場合の確認点

(1) デスクトップのタスクバー右側(通例右下)にある「スピーカ」のアイコンをダブルクリックし、「ボリュームコントロール」の画面を出します。



(2) その「ボリュームコントロール」の中にさらに「ボリュームコントロール」というコントローラがあり、それとは別に「WAVE」というコントローラがありますが、これらの設定が(どちらか片方でも)低くなっていれば、上げてやります。

(3) またコントローラの下に「(全)ミュート」(=消音)という小窓がありますが、ここにチェック印( )が入っていると、たとえコントローラの設定が最大になっていても、完全に消音されてしまいますので、その小窓をクリックしてチェック印(×)を消してやります。

(4) 「ボリュームコントロール」の右上の [x] をクリックして閉じたら、同じ「スピーカ」のアイコンを、今度はシングルクリックし、「音量」という画面を出します。



(5) そのコントローラの設定と、ミュートの状況とを確認し、不具合があれば直します。

「スタート」 「コントロールパネル」 「サウンドとオーディオデバイス」を順にクリックし、スピーカの設定を変更する で調整することもできます。

(6) 最後に、画面上のコントローラでの設定ではなく、実際のツマミやキーによって、最

最終的に音量を調節する操作が残っています。これはコンピュータの機種によって異なりますので、コンピュータの使用説明書をご覧くださいこととなりますが、大まかに言ってに次の3つパターンがあります。

- (a) スピーカ内臓のコンピュータの場合 その1  
音量調節ツマミがどこかに付いている
- (b) スピーカ内臓のコンピュータの場合 その2...特にノートパソコンの場合  
Fnキーと他のキー(例えばF5[ ]とF6[ ])を押して音量を上げ下げする
- (c) スピーカ外付けのコンピュータの場合  
スピーカに音量調節ツマミが付いている

なお、ヘッドフォンを使用する場合は、ヘッドフォンの電源や音量調節ツマミも確認してください。

また、コンピュータによっては(音楽)CDを聴くための、専用の音量調節ツマミとヘッドフォン端子が付いている場合もありますが、それは関係ありませんので、ご注意ください。

## 動作環境

Windows® X P (日本語版) がインストールされたパソコン。

必要メモリーは1 2 8 MB以上。

ハードディスクに1 G Bの空き容量があること。

(Windows® 9 8、Me、2 0 0 0等での動作の保証はいたしません)

\* Windows® は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

\* \* その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

## 学習画面の右側の文字が切れる場合の確認

「スタート」(「設定」) 「コントロールパネル」 「画面」 「設定」 「詳細設定」 「通常のサイズ」の順に選びます。

「画面の領域」が1024×768ピクセル以上に設定されているか。

800×600の場合には1024×768以上に変更して下さい。